

てんじ かんしょう  
展示を楽しむための鑑賞ガイド

きゅう てい ぶん か  
宮廷文化  
ことはじめ

京都は、<sup>へいあん</sup>平安時代に都が置かれてから<sup>めいじ いしん</sup>明治維新まで、約1100年もの間、<sup>てんのう</sup>天皇が住んでいた場所です。<sup>てんのう</sup>天皇が暮らした<sup>ごしょ</sup>京都御所は、日本文化を生み出し、広め、長く伝える場所でもありました。そこでは、海外からの新しい文化を取り入れながら、日本の文化が<sup>はぐく</sup>育まれてきました。

<sup>てんらんかい</sup>この展示会は、<sup>てんのうへい か</sup>天皇陛下の御即位を記念して、<sup>ごそくい</sup>  
<sup>こうしつ</sup>皇室ゆかりの地である京都で<sup>かいさい</sup>開催するリン！  
<sup>てんじ</sup>展示やこのガイドを通して、<sup>ごしょ</sup>御所で<sup>く</sup>繰り広げら  
<sup>きゅうていぶん か</sup>れた宮廷文化を感じてもらえたらいいな！



# 「即位」って何をするの？

「即位」とは新しい天皇が位につくことで、「即位礼」は新天皇が即位したことを人々に知らせる儀式です。即位礼は時代によって変化してきましたが、特に明治時代に大きく変わりました。

私たちが見た令和の即位礼とは違った、江戸時代に京都御所で行われた即位礼の様子を見ることが出来る作品があります。それは「**霊元天皇即位・後西天皇譲位図屏風**」(11/3～11/23展示)です。

一对の屏風のうち、右側には1663年に行われた霊元天皇の即位の様子が描かれています。建物や儀式の道具、人物に貼り札があり、儀式がどのように行われ、どのような人々が参加したのかが詳しく分かります。

## 紫宸殿の高御座に座る霊元天皇

- 翳によって隠されていた天皇の姿があらわになった、式のクライマックス。
- 天皇の顔まではっきりと描かれている作品は、ほかにありません。当時の天皇は10歳。あどけなさも。
- 金属と玉に飾られた冕冠をかぶり、赤い礼服を着ていて、中国の影響がうかがわれます。



霊元天皇即位・後西天皇譲位図屏風 右隻 狩野永納筆 江戸時代 17世紀 京都国立博物館蔵 後期展示

## 式を眺める庶民

当時の即位礼は庶民にも公開されていました。

展示室には、江戸時代の礼服や冕冠の実物も展示されているリン！  
見に行ってみよう！



# 漢字と“かな” ——文化の交わり

日本の宮廷では、中国的な「漢」の文化に学んで、日本らしい「和」の文化が生み出されました。どちらの文化も大切なものとされ、それらが一緒に並んだり、混ぜたりしました。

天皇は、和漢の文化を身に着け、人々の手本となる存在でもありました。

漢と和の交わりが、分かりやすく表れているのが『万葉集』です。

『万葉集』は奈良時代の終わりごろにできたと考えられている歌集です。当時は中国から伝わった漢字だけを使って日本語を表していました。

一番最初に書かれた『万葉集』は失われてしまいましたが、それを写した「写本」が今も残っています。今回はその中で一番古い「桂宮本万葉集」と二番目に古い「藍紙本万葉集」(下図・10/10～11/1展示)を展示します。どちらも平安時代のものです。

## 万葉仮名の一例

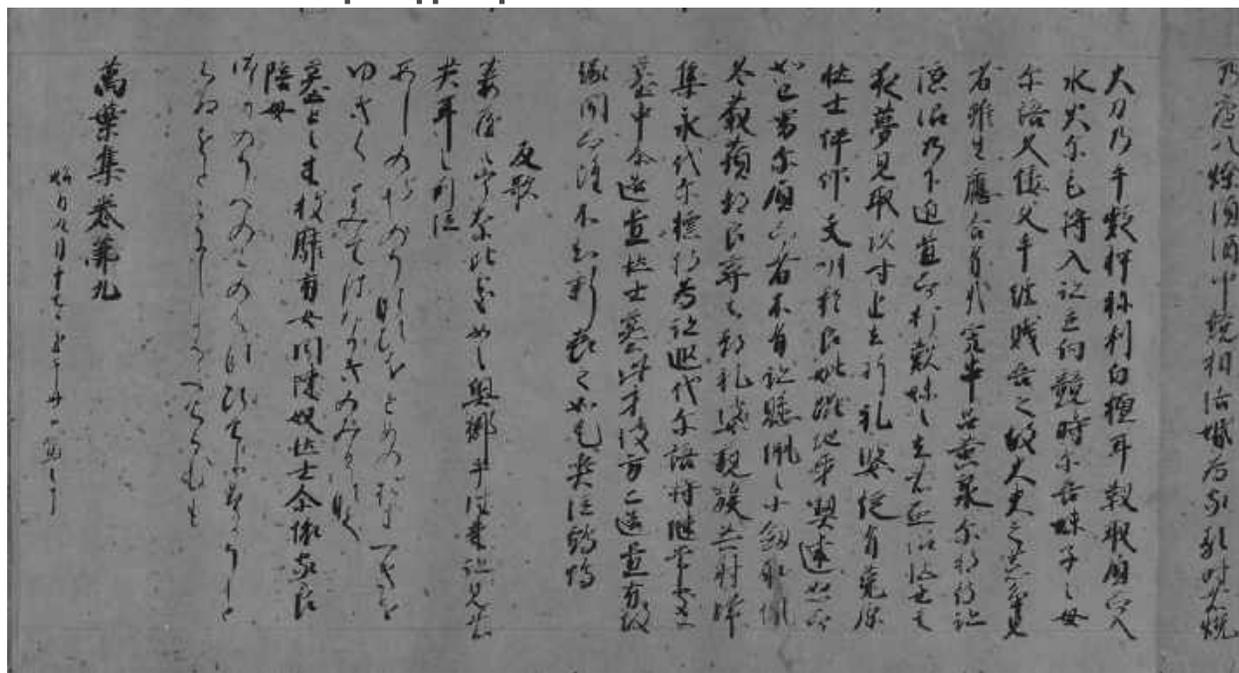
あ  
し  
の  
や  
の  
う  
な  
ひ  
を  
と  
め  
の

漢字の意味は関係なく、1文字で1つの音を表しています。これが次第に形を変えて、平仮名や片仮名になりました。

平仮名の訓み

漢字で書かれたもとの文

藍色の紙なので「藍紙本」と呼ばれています。



巻末には「9月17日から始めて20日に写し終えた」ということが書かれていて、わずか4日間で、10m以上もあるこの巻を写したことが分かります。

奈良時代の人々がどう読んだのか、平安時代にはすでに分からなくなっていたので、ここには訓みがついていません。

国宝 藍紙本万葉集 卷第九残巻 部分  
藤原伊房筆  
平安時代 11世紀  
京都国立博物館蔵 前期展示

新元号の「令和」は、『万葉集』の中から取ったんだって！



# へい あん 平安時代にあこがれて

ひぎょうしゃ ごしょ きゆうでん つぼにわ ふじ  
飛香舎は、御所の宮殿の一つです。壺庭に藤を植  
えたことから、「藤壺」とも呼ばれました。へいあん  
に書かれた有名な『源氏物語』では、主人公・  
ひかるげんじ あこが おんなぎみ ふじつぼ みや く  
光源氏の憧れの女君・「藤壺の宮」が暮らすところで  
した。作者・むらさきまきぶ せいぼつねん ふしょう ふじわらの  
紫式部（生没年不詳）が仕えた藤原  
しょうし ひぎょうしゃ  
彰子（988～1074）の住まいも、また飛香舎でした。

重要文化財 源氏物語画帖 四帖のうち甲帖 空蝉  
絵 土佐光吉筆・長次郎筆 詞書 後陽成天皇宸翰ほか  
桃山時代 17世紀  
京都国立博物館蔵 通期展示



へいあん く  
平安時代の暮らしのイメージ

## ひぎょうしゃ よみがえる飛香舎

ひぎょうしゃ へいあん てんのう きさき  
飛香舎は、平安時代には天皇のお后たちの住まい  
であり、てんのう きさき ぎしき じゆだい ぎ  
天皇の后となる儀式（入内の儀）なども行っ  
ていました。その後、すがた  
姿を消していましたが、  
えど へいあん  
江戸時代後期の1794年に平安時代のかたちにな  
らってふた  
再び建てられました。この時は、ぎしき  
儀式用に特  
化してつく  
造られました。えど  
江戸時代には、日本の古い文  
化を明らかにしようとする「こくがく さか  
国学」が盛んになりま  
した。その研究成果をもとにして、ひぎょうしゃ  
飛香舎の建物や  
ぎしき さいげん  
儀式の再現が試みられました。それから、またかさい  
火災  
で焼けてしまいました。1855年にさいげん げんざい  
再建され現在  
にいた  
至ります。

今回は、えど ひぎょうしゃ ちやうど  
江戸時代の飛香舎の調度（道具や家具）  
がてんじ  
展示されます。今では見ることのできなない京都  
ごしょ ひぎょうしゃ く ぎしき  
御所・飛香舎での暮らしや儀式に思いをめぐらすこ  
とができます。



飛香舎調度 一式のうち  
松喰鶴蒔絵螺鈿二階厨子および沈枕（上）  
松喰鶴蒔絵螺鈿二階棚飾り（下）  
江戸時代 寛政6年（1794）または安政2年（1855）  
東京国立博物館蔵 通期展示

このガイドで紹介した作品は、  
全部1Fで展示しているリン！



令和2年度 文化庁  
地域と協働した博物館創造活動支援事業